

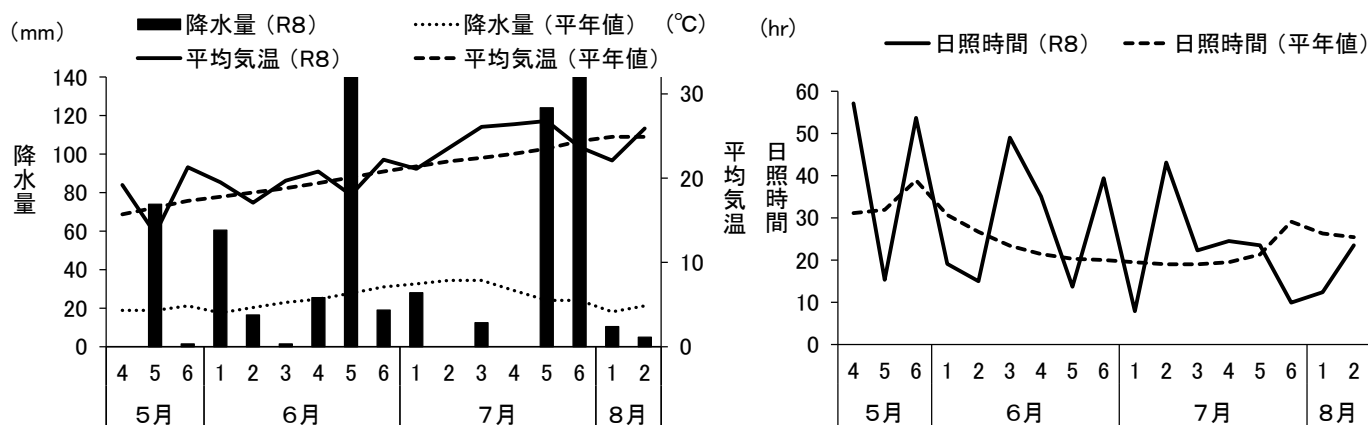
仙台大豆作情報

令和8年度第3号
令和8年8月14日発行
仙台農業改良普及センター
TEL 022-275-8410

○栽培管理のポイント

生育ステージを確認し、適期に病害虫防除を実施しましょう！

1 気象経過（5月第4半旬～8月第1半旬）



- ・ 平年より高い気温で推移しましたが、7月下旬からは平年より低い気温で推移しています。
- ・ 7月下旬は降水量が平年よりかなり多くなりました。
- ・ 日照時間は多い傾向で推移しましたが、7月第6半旬から少なくなりました。

2 生育調査ほの生育状況（8月10日調査）

品種 (地区)	調査年	播種日	出芽期	開花期	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
タンレイ (仙台市宮城野区岩切)	本年	6月16日	6月26日	8月3日	54.4	12.7	2.2
	前年	6月20日	6月28日	8月4日	42.1	12.5	3.5
	平年	6月15日	6月22日	7月31日	50.8	12.1	1.7
ミヤギシロメ (仙台市若林区荒井)	本年	6月13日	6月24日	8月6日	66.8	13.5	2.0
	前年	6月18日	6月27日	8月8日	73.2	15.5	3.2
	平年	6月15日	6月23日	8月5日	65.8	14.3	3.6

※「開花期」とは、初めて開花した株が全体の40～50%に達した日
※平年値は5か年平均

- タンレイは主茎長が平年より長く、主茎節数は平年並で、分枝数は平年より多くなりました。一部、ツメクサガなどのチョウ目幼虫による食害が見られました。
- ミヤギシロメは、主茎長が平年並み、主茎節数、分枝数は平年より少なくなりました。また、ほ場の一部でハダニやチョウ目幼虫による食害が見られました。
- タンレイの開花期は8月13日で平年より3日遅く、ミヤギシロメの開花期は8月6日で平年より1日遅くなりました。

3 今後の栽培管理

(1) 病害虫防除

【病害虫防除体系】

処理時期	対象病害虫
開花期から莢伸長初期	紫斑病・オオタバコガ・ツメクサガ・ダイズサヤタマバエ
子実肥大初期から子実肥大中期	紫斑病・カメムシ類・マメシクイガ・フタスジヒメハムシ

○紫斑病

- ・特に**タンレイ**は紫斑病抵抗性が弱いので、開花期の 20～40 日後に必ず 2 回防除を実施しましょう。
- ・管内でもアゾキシストロビン剤の耐性菌発生が確認されています。同剤で効果が低下しているほ場では、他の系統剤（**プランダム乳剤 25**、**ニマイバー水和剤**、**トライフロアブル**等）の使用を検討しましょう。

○タバコガ類（オオタバコガ、ツメクサガ）

- ・中齢幼虫期以降は莢に移動して加害することから、被害が大きくなる傾向があります。**8 月以降に発生を確認した場合は速やかに防除**を実施しましょう。
- ・オオタバコガとツメクサガが混発した場合は、**フェニックスフロアブル**で同時防除が可能です。



中齢幼虫(タバコガ類)

○ダイズサヤタマバエ

- ・被害莢は一部が小さくなって虫こぶとなって、子実、莢とも生長が停止して極めて小さい莢あるいは奇形莢となるものが多くなります。また、開花直後の若い莢が被害を受けると、落夾することもあります。
- ・発生を確認した場合は開花後期～莢伸長期に 1～2 回薬剤散布を検討しましょう。

○吸実性カメムシ類

- ・病害虫防除所の発生予報で発生量が多いとされています。越冬地（雑草地、山林等）付近では発生が多くなる傾向があるので注意しましょう。
- ・若莢が着き始める頃から莢が黄熟する頃まで、莢内の子実を加害します。
- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、**着莢期から子実肥大中期の間に 2 回薬剤を散布**しましょう。



成虫（ホソヘリカメムシ）

○マメシクイガ

- ・莢に侵入した幼虫は子実の縫合線に沿って食害します。
- ・成虫の発生盛期は、8 月第 6 半旬～9 月第 1 半旬頃です。**8 月下旬とその 7～10 日後にかけて 1～2 回防除**しましょう。
- ・連作年数が長いほ場や前年の発生が多かったほ場では、発生状況を確認して防除を行いましょう。**グレーシア乳剤、プレバソンフロアブル 5 等**の効果が高いです。



マメシクイガ幼虫

○フタスジヒメハムシ

- ・成虫が若莢を食害すると、そこからカビが侵入して汚粒の原因となります。
- ・第 2 世代成虫が発生する子実肥大期(8 月下旬～9 月上旬頃)に防除しましょう。



フタスジヒメハムシ成虫

(2) 高温・乾燥対策

<各生育ステージの乾燥による影響>

花芽分化～開花始期：花数の減少、落花・落夾の増加

開花終期：落夾・不稔夾の増加

開花終期以降：百粒重の低下（減収の要因）

○晴天が続くような場合には、畝間かん水で水分を供給するか、開花前から暗渠の水こうを閉じて水分保持をする等の対策を実施しましょう。

(3) 雑草防除

コンバイン収穫では、成熟期に雑草が残っていると汚粒の原因となります。必要に応じて茎葉処理除草剤の使用や早めの手取り除草を検討しましょう。

4 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（8月13日仙台管区气象台発表）

向こう1か月 (8月15日～9月14日)	暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
1週目 (8月15日～8月21日)	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は高い確率が50%です。
2週目 (8月22日～8月28日)	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は高い確率が70%です。
3～4週目 (8月29日～9月11日)	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は高い確率が70%です。

■宮城県農薬危害防止運動実施中（令和8年6月1日から8月31日まで）

宮城県では、6月から8月にかけて農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

■農業機械の事故防止対策・被害軽減対策

- ・ほ場周辺の危険箇所の確認、危険回避行動の実践
- ・危険箇所の改善
- ・シートベルトとヘルメットの着用
- ・安全フレーム付きトラクターの利用

■熱中症対策

- ・こまめな休憩と水分補給
- ・高温時の屋外での作業は極力避ける
- ・複数名で作業を行う
- ・身体を冷やす工夫を